
ぺたぺた

桜海老

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぺたぺた

【Nコード】

N6937H

【作者名】

桜海老

【あらすじ】

幽霊が出ると噂される会社。そこで音は警備員のバイトをするこ
とになった。

これは警備員のバイトに着いて3日目の夜の出来事だった
警備する場所は竹中株式会社というそこそこ大きいビルだ
幽霊が出ると言う話を幾つか聞いたが俺自身幽霊は信じなかったし
時給も高かったから気にはしなかった。
3日目ということもあり軽く慣れてきていたので鼻歌など歌いなが
ら警備をしていたんだ。

ぺたぺた

そんな地面を裸足で歩くような音がした。
最初は気のせいかなと思いきにもしなかった。
だけど俺が歩く度に後ろから

ぺたぺた

ぺたぺた

ぺたぺた

と音がしたんだ。

俺は怖くなって恐る恐る振り返った
だけどそこには誰もいなかった。

俺がおかしくなったのかと最初は思ったよ。
けどよく床を見てみると水溜まりが出来ていたんだ。
間違いなく何かいる！

そう思っつて必死に警備員室まで走った
すると後ろからものすごい勢いで

ぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺたぺた

ぺた

と音が追ってきたんだ
必死に走ったけど途中で足が躓いて転けてしまったんだ。音はもう
すぐそこまで来ている。

逃げようにも足がすぐんで動けない
音はもう真後ろにまで来た。

追い付かれる！
そう思った途端音が止んだんだ。

あれ？っと思つたよ
恐る恐る目をあけても誰もいない。
ホッとしたよ。諦めてくれたんだって

いつまでも倒れてる訳にはいかないから立ち上がろうとした時、頭
の上に何か水滴のような物が落ちてきたんだ

一回だけじゃない、二回三回とだ。雨漏りかなと思いついて見たらそ
こには長髪の女性が天井に張り付いていたんだよ。

服は濡れ髪はボサボサ蒼白い裸
一目見て人間じゃないと予想は出来た。
こいつは最初からいたんだ、上からずっとはって俺を見ていたんだ
俺が情けない悲鳴を挙げると同時に女は俺に落ちてきた。

それから俺は気が付くと病院にいた。

どうやら倒れていたのをバイトの人が見つけてくれたらしい。
俺はすぐにバイトを辞めた。それからはぺたぺたと言う音は聞くこ
とはなくなった。

会社での幽霊の話は全く聞かなくなった。

何故なら今その女性は俺に張り付いているんだから

(後書き)

こんな作品を最後までよんで頂きありがとうございます。本当はもうちよい手の込んだ事をしたかったのですがいろいろと予定が多く2009のホラー作品の参加もし損ねたというのもありもついてもと言う感じになってしまいました

本当にごめんなさい

最後によければ感想など頂けると幸いです

最後まで呼んで頂きまことにありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6937h/>

ぺたぺた

2010年11月27日05時41分発行